

研究報告掲載報文要旨

若狭湾西部海域におけるアカモク 2 個体群の生長および成熟

西垣友和, 道家章生

若狭湾西部海域の 2 地点に分布するアカモク個体群の生長および成熟を調べた。大島地先の個体群では、11 月下旬以降に急激に藻体が伸長し、1 月下旬に藻体長は 4 m に達し、成熟した。一方、小橋地先の個体群では藻体の急激な伸長は認められず 5 月に藻体長は最大値 (1 m 程度) を示し、成熟した。また、両個体群から得られた人工種苗を同一環境下で養殖した結果、種苗の生長および成熟は、それぞれの由来地点の個体群と類似した。これらのことから、若狭湾西部海域において生長および成熟特性が異なり、エコタイプの関係にあるアカモク個体群が存在することが明らかになった。

阿蘇海の二枚貝垂下飼育容器に混入したアサリ稚貝の垂下飼育試験

谷本尚史, 田中雅幸, 藤原正夢

阿蘇海で採集された平均殻長 (SL) 17.1 mm および 10.6 mm のアサリ稚貝を前者は 2011 年 6 月、後者は 2012 年 6 月からそれぞれ翌年 6 月まで複数の密度区を設定し垂下飼育試験を行った。前者は 11 月に SL36 mm に、翌年 6 月には SL43.3 ~ 45.1 mm となった。後者は 10 月に SL28 mm に、翌年 6 月には SL37.4 ~ 39.9 mm となった。容器当たりの収穫金額について、前者は 2,567 ~ 6,198 円で、密度が高いほど高く、後者は 3,835 ~ 5,196 円で、設定密度のうち中間の密度で最も高かった。

阿蘇海の二枚貝垂下飼育容器に混入したアサリ稚貝 (資料)

谷本尚史, 田中雅幸, 藤原正夢

2010 年および 2011 年の 3 ~ 6 月に毎月 1 回、阿蘇海で垂下養殖している二枚貝類の飼育容器に混入するアサリ稚貝について、10 mm 目合いの網で篩い、網上に残る稚貝を全数回収して殻長と数量を計測した。回収された稚貝の大きさは 6 月時点で殻長 10 mm 以上になったこと、飼育容器当たりの回収個体数は 2010 年が約 4,800 個体、2011 年が約 3,300 個体であったことから、本方法により回収したアサリ稚貝が養殖用種苗として利用可能であることが示唆された。